

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

最終レポートの完成度、各課題の提出状況、出席率をそれぞれ点数化し、それらを元に総合評価得点を算出した。

試験と授業への参加態度

授業内容を理解しているかを重視している。

100点のうち、各講義のレポートの合計10点、中間テスト20点を2回、期末テスト50点で判断した。中間テストを設けた理由は、適度な間隔でテスト勉強をすることで、期末試験の一夜漬けのような勉強法を避けさせること、また、その結果記憶の定着を狙ったためである。中間試験のテストの答案を返却することで、自分がどれだけ点数を取れたか把握でき、単位取得への意欲向上を狙った。これは、期末試験のみの点数での評価だと、不真面目な学生が投げ出していた過去の経験による。実際、中間試験対策のまとまった勉強により、その後の講義の内容が理解しやすくなった、また、点数を着実に積み重ねることができるので最後まで講義をあきらめなかった、との意見を個別に聞いている。

出席点15%、筆記試験85%で成績を出した。A評価も数名いたが、全体的にB評価あるいはC評価が多かった。また、D評価も数名いた。

授業中の態度(特に積極性、実験・実習の進展度合い)、レポートの内容。
なお、自由記述欄に「これで1単位は厳しい、2単位にしてほしい」という意見があったが、これは全学的に決まっていることなので私に言われても困る。しかし個人的にはその気持ちはよく理解できる(理学部なら2または3単位の実験内容に相当する)。

出席状況、レポートの提出、口頭試問内容の理解等を総合的に評価した。

・基本的に次のように成績を出している。
2タイプの課題があり、課題①(Flash教材)が5回分で約3割、課題②(レポートや相互評価など)が4回で約3割、最終課題が約3割、出席1割の配点である。

おおよそ筆記試験70%、演習30%を評価基準に学業成績をつけた。

期末試験が評価の主たる材料であるが、その他、出席、受講態度等を加味し総合的に評価している。試験の採点においては、答えの正否のみならず、論述内容に重点を置いて評価している。評価基準はおおむね以下の通りである。

・論述は不十分であるが、基礎問題が出来ている場合は「C」、これにも満たない場合は「D」、
・講義で説明した基礎事項の理解度に加え、論述の質により「A」または「B」を判断、
・基礎から発展に至るまで十分な論述内容を伴っている場合は「S」としている。
なお、試験の点数がボーダーライン上にある場合は、欠席回数や受講態度を考慮し最終評価としている。

中間試験と期末試験で100点満点の評価を算出し、60点未満であればレポートや出席で最大20点までの加算を行った。その結果、S判定6名、A判定0名、B判定4名、C判定4名、D判定1名、棄権4名という結果であった。

2回の筆記試験、出席、授業への参加態度を考慮した。

1回の筆記試験に基づく。
(ただし、この授業は3人の教員で分担。他の教員は、他の方法で評価。3人分を合算)

提出課題がこちらの要求にどの程度応えたものとなっているか。

受講者が10名を超える講義では基本的に試験(90点)とレポート(10点 5回分)の合計点で評価した。このことは授業開始時に学生に伝え了解をとった(学生からは出席点を加味してほしいとの要望もあったが...)。試験終了後、学生には E-mail で総合点を知らせ、学生から疑義があった場合は試験結果の詳細を知らせ学生と納得の上で評価点を付けた。なお、一部の4年生に対しては追試を行い、その結果を評価点として考慮した。受講者数が10名以下の場合はゼミ形式をとり、学生の授業に対する積極性を成績の判断材料とした。また実験授業では、報告書を E-mail で提出させ、実験で得られたデータの内容をみて判断した。

プログラミングの場合、1文字の入力ミスでも正常に動かず、このミスを自分で発見できるようにすることは非常に重要である。このため、まず例題をそのまま入力し、入力ミスがあれば自分で発見して、プログラムを正しく実行できることを最低条件とし、講義毎に行う演習問題を例題に沿って解けること、さらに応用問題でアルゴリズムを考えてコードを作成できるかどうかで評価を加えていった。

記述式の試験を行い、文章の論理性や、正しい答えをきちんと伝えることができているか、というところに着目しながら採点評価した。

出席点を10点とし、期末試験90点分と合算して総点を算出した。

3名の担当で担当分に応じて配点を按分し、各自受講態度とレポートの優劣によって成績を算出した。

試験のあるものは、試験の結果のみで評価している。発表中心の授業では、評定項目(科学的にを認識する能力、個別の調査に基づいて調べた内容を他人にわかりやすく伝える能力、報告書作成における論理的な文章作成能力)を5段階で評価し、すべてを合計して評点とした。

毎回の小テストの点数(3割)、期末試験の点数(5割)、授業中の発表(2割)。

宿題プリント(3割)、定期試験(7割)、自主学習をしたものに対して付加的な得点を与えた。

基本的にレポート30点、テスト70点、計100点において、通常のルールに則った基準による成績。授業への積極的な参加(発表、発言)も評価に入れた。